

人権夏期講座に参加して 差別の撤廃めざし共に歩もう

月星海運分会 岡 英一

部落解放・人権夏期講座実行委員会主催の夏期講座が8月22日(水)～24日(金)の3日間、高野山大学松下講堂黎明館(れいめいかん)・体育館・201教室で講義が行われ、フィールドワークもありました。3日間で7講座を受講しました。

初日の全体講演1は、「インターネット上の差別問題の現状と解消に向けた取り組み」と題する、ジャーナリストの津田大介さんによる講演でした。津田さんは、ソーシャルメディアやスマートフォンの普及によって、ネット上にヘイトスピーチや差別が横行し、世界各国で大きな社会問題になっている。ネット上の差別の現状分析、解消



に向けた取り組みなどについて話されました。

全日本おばちゃん党代表の谷口真由美さんからは、「世界人権宣言70年と日本国憲法」と題して、日本国憲法は公布から72年になりますが、それぞれの人権規定の中身をじっくりと覗いてみようとの趣旨で講演をいただきました。

2日目には4講演、3日目には1講演があり、色々な角度から見た差別の実態、その中でどのように人権は扱われて来たのかを基調に、「全国部落調査」出版差し止め裁判(中井雅人)、「LGBTを取り巻く人権課題と最近の動向について」(日高庸晴)、「当事者が語るパニラ・エア騒動」(木島英登)、「人種差別禁止条例に向けた『オール川崎』の闘い」(石橋 学)が講演されました。

最後に、映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」と題して、漫画『はだしのゲン』作者の中沢啓治さんが、広島市内の思い出の土地を辿りながら、自身の生い立ち、広島での被爆体験から『はだしのゲン』を描くまでの半生を語りま

した。戦争体験者自らが語る戦争の残酷さ、悲惨さ、そして苦しい生活の中でのイジメや差別について、生々しく話され、その内容は衝撃的でした。



3日間を振り返り、21世紀に生きる我々のすぐそばで、セクシャルマイノリティ、人種差別主義者によるデモや集会、障害者に対する日常的な差別や偏見など、人権侵害が、まだまだ根深くある事実を思い知らされました。

あらゆる垣根を越えて、人権を大切に知るべきと考える人々は、互いに手をつないで、差別をなくすために共に前進しなければならないと思いました。

余談。噂には聞いていましたが、宿坊での晩ご飯は、やはり、精進料理のみでした。健康にはいいのですが、酒の肴になるものがなく、辛い食事風景となりました。次回参加される方は前もって酒の肴はご用意を!?

・編集後記・「イデオロギーよりアイデンティ」

◆台風21号の影響で関西国際空港が浸水し、使用できなくなった。室戸台風以来というが、今後、同様の災害に見舞われるだろうことは、当然、予測しておかなければならない◆関空の地盤が軟弱であることは、造成前から問題視され、工事着工から開港までに9.82㍍、開港以後は3.4㍍も沈下している(関西国際空港発表)◆インパウンドも含めて年間2000万人もの人々が利用する関空がこんな脆弱でいいのか◆そして・・・沖縄・辺野古に建設されようとしている新基地の地盤も、マヨネーズのように非常に軟弱である。このことを隠し続けて来た防衛省も、ついにその事実を認めた◆沖縄県知事選が終われば本格的な埋め立てが始まるのだろうか、地盤沈下がわかりきっている海底に、3兆円とも言われる私たちの血税を注ぎ込んでまで、米軍のための基地を造ることを認めるわけにはいかない◆一方、メディアはなぜ、その事実を書かないのか!安倍政権の圧力とはいえ、権力を監視することが本来の使命であるジャーナリズム精神が、ここまで墮落したことには呆れる他はない◆最近の全日連連帯労組に対する不当弾圧の際にも、報道関係者、レイシスト集団が待機していた。どこで情報が漏洩しているのか◆資本と闘い、権力を批判する労働組合の存在が邪魔なのか!◆反動立法、労働法改悪、改憲、辺野古新基地建設など、安倍のやりたい放題を食い止めよう!



発行 行 1-12-27
大阪 港区 築港
大 日本 港 労働 組合 関西 地方 大阪 支部
全 日 本 港 湾 労 働 組 合 西 国 分 仁 昭
発 行 責 任 者



政治の動向と沖縄知事選挙

書記長 林 繁行

安倍総理は最近、「秋の臨時国会で憲法改正発議を行う」と表明しました。しかし公明党は、来年の地方自治体選挙を視野に入れており、憲法論議までできないと難色を示しています。その後、5月には天皇代替わり、6月には大阪でG20、7月には参議院選挙等、多くの政治日程が詰まっていることもあり、果たして総理の思惑通りに、憲法論議が進展するかどうかは見通せません。

少子高齢化の進行による労働者不足で、物流業界でも自動化が図られてはいるものの、日本全体の労働者が減少することは、即ち税収が激減し、年金や社会保障の削減へと進むこととなります。例えば、今年の10月から、最も支援を必要とする生活保護における扶助基準の引き下げ(平均1.8%、最大5%、総額160億円)が、すでに決定しています。憲法25条で保障された「健康で文化的な最低限度の生活」も困難になります。月末になると食事を1日1食にする人、エアコンも使えず熱中症で2万人超が搬送され100人以上が亡くなっているのも現実だ。

政府は、アメリカに要求されたイージスアショア2基の購入設置に6千億円以上を費やし、その他中古武器の購入にも多額の血税を費やし、その結果、「兵糧攻め」にされる労働者が増加しているのが現状です。そして、日々の生活に追われて、現実社会が目に入らない。自分は仕事に慢心し、自分だけは生き残ればよいという社会になりつつあるように感じます。



平和で誇りある沖縄に

沖縄では辺野古新基地建設反対の闘争で最前線に立っていた翁長雄志知事が8月8日に急逝し、11月予定の知事選挙が、9月30日(日)投開票となりました。基地建設反対派からは、翁長知事の意思を引き継ぎ、自由党の玉城デニー衆議院議員が立候補しました。民意で、世界一危険と言われる普天間基地の運用停止や環境を破壊す



る辺野古新基地建設を阻止しなければなりません。

今年、自民党議員のヘイト発言が続出したことを忘れてはなりません。「3人以上の子どもを産んでほしい」、がん患者団体の発言中に「いいかげんにしろ!」、さらに杉田水脈衆議院議員は「日本に女性差別は存在しない」、「LGBTは生産性がない」と月刊誌に寄稿して大きな批判を浴びました。

政治家の質の低下、与党に緊張感もない。高飛車な態度をとり続ける安倍政治に終止符を打たなければなりません。

第12期支部労働学校

8月25～26日、大阪南港・ホテルフクラシア大阪ベイで第12期支部労働学校が開催されました。参加者は執行部14名、講師3名を含め、合計42名でした。

次代の支部を担うため

執行部 吉本 賢一

2年ぶりの労働学校を開催する実行委員になり、企画し、内容を決めた経緯などを書かせていただきます。

一昨年までは「労働学校」として、学習を中心にしていましたが、昨年は「組織強化討論集会」に変えました。しかし、学習会を希望するアンケート意見が予想以上に多くあり、今年は2年ぶりに支部労働学校としての開催を決めました。

従来は、芦屋山荘開催で、ほぼ固定した分会・組合員の集まりとなり、マンネリ化も指摘されていたため、今回は分会代表者1名（定員に満たないときは2名）、将来的に分会や支部を

担う人材の裾野を広げるためにも、数多くの分会に参加してもらおうと人数制限しました。

講義内容や講師についても、5月中旬から5回の実行委員会を重ねました。私にとっても初めての経験で、講師依頼書作成や講義内容、交通手段、講師料



などについて、直接、講師を訪ねるなどしました。

辻元清美立憲民主党衆議院議員については、私が選挙応援を通じ10年以上携わった経緯があ

り、一度は講演をお願いしたいと思っていました。講義では、国会でのモリカケ問題や働き方改革関連法審議における与野党の攻防、マスコミには出ない裏話もしていただき、参加者から普段聞けない話で良かったとの声も聞かれました。

全体で3本の講義には、関連性があり、参加者の身近な問題や今後職場に生かす課題として提起出来たのではと思います。

アンケートも、概ね評価いただきましたが、中には「宿泊してまでやるべきなのか」「執行部はどこを目指しているのか」などの意見もありました。

参加者全員の希望に添うことは、実際問題として不可能ですが、今後も支部全体の発展につながるよう企画、立案を努力します。

大衆路線で大資本との闘いを！

執行部 田村 吉雄

私は、松本中央執行委員長の「全港灣の運動、直面している課題、組織拡大と労働運動再生」についての講義の感想を述べます。

まず、運動方針は「運動の基調」の内容が全てであり、全港灣の取り組みの基本が理解できるので、全員がしっかり読破するよとのことでした。

松本委員長はまた、「国民の現状は政治に無関心、無気力状態である中、労働組合は政治を変える運動にしっかり取り組む必要がある。国会議員候補者を見定めるには、自らが政治に関心をもち、政党、候補者の情報収集を行ない、推薦する候補者を組合員にしっかり説明、説得しなければならぬ。今の世の中

でいいのかという発想を常に持たなければいけない。中央本部も今後は港灣、運輸業界の事を一緒に考えていく議員との懇談会を定期的におこ



なって、政策行動をやっていきたい」と話されました。

組織拡大の重要性については「全港灣は大衆路線なので、組合員の率直な声を聴く姿勢を絶対に忘れては

いけない。第一義的には大資本、権力との闘いであり、しっかり相手を見定めて闘う必要があり、外に向けた闘いはひとりとも力を抜いてはならない」と強調されました。

最後に「運動の中なかでは、失敗も貴重な経験であり、新しい発想で皆で団結して楽しくやっていく、民主的に運動すること、組織拡大に集中していくことが大事である」と話されました。

今回の講義で、あらためて、仲間をより深く知る大切さや、幹部は仲間の自発性を尊重し、意見を押しつぶすことのないよう、寄り添うという姿勢が非常に大切だと感じました。

今後は、仲間を大事にし、大衆路線を忘れずに、自らが責任を持つべきことを、無意識であっても組合員のせいにしてはならず、大衆を啓蒙していけるような活動を目指していこうと強く決意しました。

本当は「働かせ方改革」

執行部 横山 貴安基

2日目の第3講義として、大阪労働者弁護団事務局長の藤原航（わたる）弁護士さんから「労働契約法20条」問題を聴きました。

労契法20条は、有期労働者と正規労働者の労働条件に相違がある場合には、「①職務の内容、②職務の内容と配置の変更の範囲、③その他の事情を考慮して不合理であってはならない」というものです。実際の裁判において、2018年6月1日に最高裁判決が出されたのが、「ハマキョウレックス事件」と「長澤運輸事件」です。

「ハマキョウレックス事件」とは、正規労働者には皆勤手当以下5種類の手当が支給されていたにもかかわらず、有期労働

者には支給されていなかったことが「不合理である」と、最高裁判決で8割方認められました。「長澤運輸事件」では、嘱託者について、「精勤手当」、「超勤手当」のみが認められる



にとどまりました。

2つの裁判が明暗を分けた理由のひとつに、③「その他の事情」として労働条件の相違は広く認めるが、嘱託労働者は正規労働者の8割の賃金をもらって

いた事案であり、それよりも低く切り下げられる事案では別というものでした。

「働き方改革」については、表向きは良いものに聞こえるかもしれないが、労働基準法の労働時間・休憩・休日・深夜労働についての規制を除外する制度であり、労働者の立場からすれば「過労死推進法」「残業代不払い法」「定額働かせ放題法」である。まさしく「働かせ方改革」といわざるを得ません。

今回の「働き方改革関連法」の行きつく先は、長時間労働の助長はもちろん、解雇の金銭解決までもが視野に入る事から、断じて受け入れることをは許されない内容である。

これからも私たち全港灣は、この揺れ動く情勢に対し、こういった学習を通じて敏感に感じ、柔軟かつ俊敏に対応し、労働者の雇用と労働条件を守っていかなくてはなりません。

参加者の声

みっちり学習！

中井商店分会 竹山 保彦

大阪支部労働学校に2日間、参加しました。

第1講義である辻元清美立憲民主党衆議院議員は、20歳で大学入学のため上京し、「平和運動をする中で全港灣を知りました。それから22年になりました。」と全港灣との出会いを話しました。そのあと、森友問題に触れ、「国有地評価額は9億5600万円でしたが、近畿財務局が出した払い下げ価格は約8億円引きの1億3400万円ですよ」と声をあらせる場面もあり、「私たちはこれからも森友・加計問題を追及する」と力を込めました。加計学園については、これからも毎年10億の税金が使われると聞いて、今までは自分にあまり関係もない事と安易な考えを持っていましたが、もっと政治にも感心を持たなければならぬと感じました。

第2講義は松本中央執行委員長。「全港灣の運動（基調から

運動方針を読み取る）、大衆路線に基づいて職場闘争を強化し、活動家を育成し、組織強化拡大を勝ち取る」など、組合づくりの教訓、全港灣東北地本当時の組織拡大の経験を語られました。



失敗を恐れず、失敗は教訓としてオルグに生かした事例は、とても参考になりました。

2日目の第3講義は、藤原弁護士さんから「労働契約法20条に関する裁判について、有期労働者の労働条件が正規労働者の労働条件と相違（格差）がある場合は職務の内容、職務の内容

と配置の変更の範囲、その他の事情を考慮して不合理であってはならない。」ことについての判例と意味内容の講義が行われました。

中井商店の分会員にも該当者が在籍しており、今後も増える可能性があるため、職場集会を開催して討論したいと思います。さらに「働き方改革関連法案」の中の「高度プロフェッショナル制度」、「長時間労働規制」、「同一労働同一賃金」の3つが特に重要として、内容説明がありました。

同一労働同一賃金や長時間労働の「規制」、高度プロフェッショナル制度や裁量労働制の拡大など、一見、労働者に有利に思える内容も、実は独占資本家が利するのです。

まさに安保関連法、共謀法の際と同じやり方ではないのか？日本の労働者はどうなるのか？と、不安を覚えました。

2日間、支部労働学校に始めて参加して、大変勉強になりましたし、交流会でも他の分会の方たちともいろいろ話もでき、次回も参加したいと思います。